

# スクールホッツライント

## もちつき会

from 豊山小学校

二月三日(水)に、もちつき会を行いました。準備から後片付けまでPTA役員やふれあい委員、六年生の保護者の皆さんの全面的な協力の下に進められ、本校では、恒例となっている行事の一つです。

もちつき会前日には、二回に分かれて、米とぎ、きなこやあんこなどの下準備を行いました。杵は大小二つを用意し、子どもたちが、自分の持ちやすい方を選べるようにしておきます。また、衛生面に配慮し、ビニール手袋やアルコール消毒などの準備も万全にします。

当日は、総勢二十九名の方に参加していただきました。タイミングの良いお湯の補充や、ころ合いよく餅米を蒸したり、蒸した餅米を素早く運んだり、つき手

ことを考えた手返しや、ついた餅をちょうどよい大きさに丸めるなど、参加者の手際の高さが光りました。それらの作業を見習うことで、六年生の子どもたちも、あつという間に一連の作業を進めることができるようになりまし

た。また、六年生すべての児童が、餅つきと餅丸めの両方を経験できるように、回数や順番を工夫しています。きなこをまぶしたり、あん



こで包んだりしてでき上がります。でき上がった餅は、各学年・学級に六年生が、心を込めて届けます。もちつき会場を出るときは六年生のちよつと誇らしげな表情や、届け終わったあとの満足そうな表情がなんとも言えません。

どの学級の子どもたちも、とてもおいしくいただくことができました。

餅つきの由来の一つには、人と人をつなぐというものがあるそうです。六年生の子どもたちと他学年の子どもたち、PTAふれあい委員会の皆さんを始め、参加していただいた方と学校、先生と子どもたち、今年度も多くの人をつなぐきっかけとなつたもちつき会となりました。

## 第百八十八話

## 厄祝

厄年と言われる年齢は四十二歳を中心に、各地でいろいろな行事があります。豊場では昔から、重ねの一日と言われる旧暦の二月一日、今の二月末日から三月初めくらいに行われます。

厄年の中で一人宿を務めなければなりません。宿は厄年の人たちが集まる家で、お餅や食事、お酒などの用意をしなければならぬので、家人総出の大仕事でした。

宿に決まった家は、お餅は一俵、御鏡の大きい方、小さい方に分け、前々日からもち米をかしておきます。前日は厄年の人だけで赤の手ぬぐいを首に巻き、清めた二台の臼で威勢よく餅つきをします。

ついた餅を次々にかぶせるように載せていき大きな鏡餅に仕上げゆきます。あんこ餅も作りお隣に配ります。夜は木遣師を一人迎えて前夜祭を開き、木遣の練習と翌日の打ち合わせをして終わります。

当日は朝早くから集まり、清められたりヤカーの上に板を張り、紅白の布でまいた上に三方に乗せた鏡餅を、昆布、柿くし、海老、橙、扇などで飾り、紅白の長い縄を作り、先頭に宿元の両親がとまり、その次に厄年の人が並びます。

神社へ練り歩く道中に見物の人に酒を



ふるまい、厄を分担してもらいます。お酒の他お菓子もふるまうこともあり

ました。氏神様へ入るときは、二十五、四十一、四十二、四十三、六十一、七十七、八十八歳の順です。不浄よけの塀を三回廻り神前に鏡餅を供え、ご祈祷していただきます。

宿に帰り昼食を終えてから、係がお供えした鏡餅を神社へいただきに行き半分を持ち帰ります。細かく切り関係者に分けます。夕食は仕出し屋さん頼み、酒を酌み交わし木遣歌を歌いながら盛大に宴会をします。宴会が盛り上がったところで木遣師を道路まで送り出します。

片づけは翌日係が行いました。今は昔の物語です。(豊山町文化財研究会の郷土文集を参考にしました)

平成十二年五月号から始まった今昔物語は今話をもって終了とさせていただきます。長い間のご愛読、誠にありがとうございました。

